

科目名	臨床実習 4							年度	2026		
英語科目名	Clinical training 4							学期	前期(通年)		
学科・学年	柔道整復科 3年次			必/選	必※	時間数	45	単位数	1	種別※	実習
担当教員	宮本功三、青木伊之、後藤晃弘、杉本知、加藤健太、秋田雄大、有山教士			教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師(接骨院にて勤務経験あり)		
<b>【科目の目的】</b> 柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学び、施術者としての責任と自覚を養うことを目的とする。											
<b>【科目の概要】</b> 指導柔道整復師のもとで、接骨院における施術の流れを実習します。											
<b>【到達目標】</b> 医療人として必要な接遇を中心とした誘導、評価測定法を身につけそれを有効に利用し、患者に説明が出来ることを目標とする。また、共通症例では外傷のとらえ方を理解し他の疾患にも応用できるようにするだけでなく具体的な治療方法(整復・固定・検査)を学び実践できるようにする。											
<b>【授業の注意点】</b> 1・2年次までの知識を総合的に使用する内容である。これまで学んだことを良く理解しないと討論に参加できないので資料等の見直しが必要となる。また、実際に外傷を想定した実技を実施するのでその心構えを持って参加してほしい。各外傷の特性の理解と、座学・実技で会得した知識・技術を反復しておくことが望まれる。											
評価基準＝ルーブリック											
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力						
到達目標 A	医療面接の手順を説明して問診を行うことができる。	医療面接(問診)ができる。	医療面接の手順を説明することができる。	医療面接の手順を説明することへの理解がやや不足している。	医療面接(問診)ができない。						
到達目標 B	身体診察の手順を説明して触診などを行うことができる。	身体診察(触診など)ができる。	身体診察の手順を説明することができる。	身体診察の手順を説明することへの理解がやや不足している。	身体診察(触診など)ができない。						
到達目標 C	ROM、MMT等の計測や評価を説明して実際に行うことができる。	ROM、MMT等の計測や評価を行うことができる。	ROM、MMT等の計測や評価を説明することができる。	ROM、MMT等の計測や評価を説明することへの理解がやや不足している。	ROM、MMT等の計測や評価を行うことができない。						
到達目標 D	環軸包帯で骨折部の整復位をいかに保持するかの技術を習得している。	環軸包帯の技術を習得している。	環軸包帯で骨折部をいかに保持するかの必要性についての理解はしている。	環軸包帯の技術を習得がやや不足している。	環軸包帯の技術を習得していない。						
到達目標 E	テーピングにより患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などを踏まえた技術を完全に習得している。	テーピングにより患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などを踏まえた技術を大体習得している。	テーピングにより患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などを踏まえた技術を理解はしている。	テーピングにより患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などを踏まえた技術を習得がやや不足している。	テーピングにより患部の運動制限・疼痛緩和・血行障害の予防などを踏まえた技術を習得していない。						
<b>【教科書】</b> 適宜レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
<b>【参考資料】</b>											
<b>【成績の評価方法・評価基準】</b> 課題等を総合的に評価する。											
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。											

科目名		臨床実習 4			年度	2026
英語表記		Clinical training 4			学期	前期(通年)
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	診察①	問診と視診について。	1 顔貌	顔色や皮膚の状態等の確認をすることの必要性について理解する。	3	
			2 歩行	歩行する所作を観察することの必要性について理解する。		
			3 愁訴	患者の自覚症状の確認についてその必要性を理解する。		
2	診察②	触診について。	1 変形	外見上の変化を確認する必要性を理解する。	3	
			2 腫脹	健側と患側の比較をする必要性を理解する。		
			3 熱感	全身的か局所的かの判断と色調の確認の必要性について理解する。		
3	診察③	計測と評価について。	1 ROM	患者の関節可動域の確認をする必要性を理解する。	3	
			2 MMT	患者の筋力評価について理解する。		
			3 ADL	患者の日常動作における自立確認の必要性について理解する。		
4	固定①	環軸包帯について。	1 意義	柔道整復術における必要性について理解する。	3	
			2 注意事項	医療過誤の防止についてその必要性を理解する。		
			3 固定性	整復位の保持についてその必要性を理解する。		
5	固定②	テーピングについて。	1 意義	予防効果について理解する。	3	
			2 注意事項	医療過誤の防止についてその必要性を理解する。		
			3 固定性	疼痛緩和と血行障害予防についてその必要性を理解する。		
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等